

国会議員の役割－保険証廃止における国会議員の反応から－

国会で国民の思いを代弁することは国民から選挙で選ばれた国会議員の一つの重要な役割である。

今回の政府が決定した保険証廃止について、世論調査では 70%が反対であった。保険医協会が主導している「保険証残せ」の運動において、私が患者さんに状況を説明し反対の署名をお願いすると、「自民党員なのでサインできない」と言われた一人を除いて全員が保険証廃止に反対であり 600 名以上の反対署名を集めることができた。保険証が廃止されることを知らなかった人も半数以上は存在し、マイナ保険証を持参した人でも国のサーバの不安定さなどその問題点を知っている人いなかった。このことから世論調査で反対とされなかった残りの 30%の人々も、保険証廃止の問題点をきちんと理解できれば保険証廃止に反対であると想像できる。

しかし、国会議員を通しての上記の国民の意見は国会に到達しない。その理由は、「所属政党はこの法案に賛成だから、国会で反対質問はできない」ということのようなのである。我々国民は、政党も選ぶが国会議員個人を信頼して選んでいるのである。国民の過半数以上の反対があっても 所属政党が賛成しているという理由で国会議員が国会でとりあげられないならこれは民主政治ではないだろうし、国会議員ではなく党のみの選挙で足りうる。

昨今の統一教会の問題においても、被害者らは国会議員に長年にわたり改善をお願いしたが、当該政党が統一教会とズブズブの関係であったので安部首相が暗殺されるまで国会で取り上げられなかったのだろう。権力に対して従順なマスコミには、権力の間違った方向性を是正するという役割を期待できない。

間違った政策をすれば「次の選挙で国民から審判が下る」とはいえ、10 年前の期待した民主党政権の悪夢を考えると、次に選挙でも私は自民党以外の選択は消去法でありえないと思っている。

2023. 1. 25

伊賀幹二 伊賀内科